



学校だより 5月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/rvokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

学校長 副島江理子

本に向き合う、自分に向き合う

～四角い本に まあるい心（28年度こどもの読書週間スローガン）～

23日の土曜授業参観日には、たくさんの保護者の皆様にご参観をいただきましてありがとうございました。昨年度の振り返りより、保護者の皆様が平日にはなかなか来校できないという実態から、今年度初めての試みとして4月の土曜授業参観を設定いたしました。あわせて学校説明会、中休みキッズタイムも設定し、より多くの保護者の皆様に学校の運営方針や子どもたちの活動の様子をご理解いただくことができました。ありがとうございました。

先日、27年度の横浜市学力・学習状況調査の結果が出て、「算数科における学力と学習意識」「外国の人とのコミュニケーション意識」「友達の気持ちを考えて行動する」等をはじめ、多くの項目で本校の児童の学力と学習・生活意識が着実に向上してきていることがわかりました。特に重点を置いている「学校図書館での学習や読書に対する意識」「各教科での資料活用力」でも大きな向上が見られます。

今年度は、さらに子どもたちに確実に力を付けていくために、引き続き「学校図書館活用を核とした学習」、「自分たちでつくりあげる生活」を進めていきたいと思えます。本校の子どもたちは本が好きですが、学校図書館での資料を活用した学習が充実してきている反面、忙しい毎日の中で自分の読書時間がとりにくくなっています。

一日の生活の中のどこかで本に向き合う時間をとるように意識できるといいと思っています。私自身、今では読書が大好きですが、子どもの頃はあまり本を読みませんでした。今のように「朝の読書」もなく、本との出会いも少なく、本を読む習慣も身につかなかったのかなと後悔しています。中学生、高校生になると部活と勉強で精一杯で読書に気が向きませんでした。私が本と向き合ったのは父を亡くした時です。どうしようもない喪失感を埋めるために本を手に取り、その後、我が子への読み聞かせをきっかけに私の読書人生が遅ればせながら始まりました。そこからの読書人生は私の生活を見事に豊かにしてくれました。

本のすばらしさはいろいろありますが、何ととっても、その本の世界（舞台）に自分一人で飛び込んでいけるということです。活字からイメージする世界やその世界で活躍する人物像は、読み手一人ひとりで違います。あの有名なバルサ（守人シリーズの）やハリーポッター（映画のイメージは強いかもしれませんが）も読み手一人ひとりでイメージが違うはずです。時には、登場人物の友達になったつもりで共感したり、やや客観的に俯瞰したり、図鑑や科学読み物では知らなかった世界を知って圧倒されたり・・・本に夢中になっているときは自分だけの世界を味わっているのです。一日に10分間でもいいから、一人で本の世界に浸り、本の中の仲間と向き合うことで心を耕してほしいものです。

先日、本校では、今年度初めての「あおむしの会」による読み聞かせの時間が行われました。ボランティアの皆様のお力で、多くの子どもたちの「本の世界への扉」が開かれて、たくさんのすばらしい本に出会ってほしいと思えます。楽しいゴールデンウィークにちょっとだけ読書の時間を入れてみてはいかがでしょうか。